

世界保護司会議における  
上川法務大臣歓迎挨拶  
(仮訳)

法務大臣の上川陽子です。

京都 kongress の開会日において、世界保護司会議に皆様をお迎えできることを大変嬉しく思います。

本会議は、更生保護に携わる世界各国の地域ボランティアと実務家が一堂に会する初の国際会議です。

本会議に先立ち、2014年と2017年には、東京でアジア保護司会議を開催しました。

本会議は、これら会議の成果を踏まえ、地域ボランティアが再犯防止の取組に参画することの有効性や、そうした制度を広く世界に普及していくための方策等について議論することを目的としています。

残念ながら、多くの犯罪が再犯者によって引き

起こされていることから、再犯を減らすことは、安心・安全な社会の実現のために極めて重要です。

そのためには、犯した罪を悔い、立ち直ろうとする人が人生に再チャレンジする努力を受け入れることのできる地域も必要です。

地域の理解を促進するためには、地域ボランティアの果たす役割が重要です。地域ボランティアの方々は、立ち直りを支える地域環境を作るために日々努力されているのです。

この点に関して、日本の取組について簡単に触れたいと思います。

我が国の更生保護制度は、実に130年以上前に、地域ボランティアによる草の根の活動から始まりました。

以来、そうした先駆者たちの多大な努力によって、更生保護制度は、今や我が国の刑事司法制度に欠かせない存在となっています。

取り分け保護司（HOGOSHI）は、更生保護におい

て大きな役割を果たしており、地域ボランティアとして、保護観察官とともに保護観察を受けている人の社会復帰を支えています。

保護司（HOGOSHI）は、罪を犯した人を隣人として受け入れ、同じ目線に立って、その立ち直りに必要な支援を行う無給のボランティアなのです。

保護司（HOGOSHI）を始めとする地域ボランティアの活動は、SDGsに掲げられた「誰一人取り残さない」社会を築くという理念に通じるものです。

本日採択された「京都宣言」が、政治宣言として初めて、再犯防止におけるマルチステークホルダー・パートナーシップの重要性を強調していることにも注目いただきたいと思います。

「京都宣言」と本会議で採択予定の「京都保護司宣言」（Kyoto HOGOSHI Declaration）が、私たちの宝である地域ボランティアの輪を世界に広げていくための礎となることを期待しています。

ありがとうございました。